

ID
氏名
年齢
科名
病棟

COP[day2]+ 【BS】Rituximab療法

____週毎____コース予定

疾患名 悪性リンパ腫

主治医

指導医

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()

スケジュール

		day1	day2	day3	day4	day5	day6
リツキシマブBS・	375 mg/m ²	↓					
プレドニン(プレドニゾロン)	60 mg/m ²		↓	↓	↓	↓	day3からは内服
オンコビン(ビンクリスチン)	1.4 mg【最高2 mg】		↓				
エンドキサン(シクロホスファミド)	750 mg/m ² ・		↓				

【注意】 ＊ リツキシマブ施行時は体温・脈拍・血圧測定・SpO2 測定はup直前におこなうこと

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

day1

【初回のみ】 ＊初回投与は必ず入院で実施

① イブプロフェン 100 mg _____錠 + デザレックス 5 mg _____錠 内服

☆ 30分後より

② 生食 500 mLにて血管確保・ _____維持(20 mL/時間)

③ リツキシマブBS + 生食 適量(10倍希釈)

◎ 輸液ポンプにて 50 mL/時間 で点滴静注

＊ 注:総量 600 mLを超える時はテルモ生食 1Lを使用

④ 50 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間 で点滴静注

⑤ 100 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 150 mL/時間 で点滴静注

⑥ 150 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間 で点滴静注

⑦ 200 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 250 mL/時間 で点滴静注

⑧ 250 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 300 mL/時間 で点滴静注

⑨ 300 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 350 mL/時間 で点滴静注

⑩ 350 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 400 mL/時間 で点滴静注

【2回目以降】 第1サイクルにおいて発現した有害事象がGrade 2以下であった場合

① イブプロフェン 100 mg _____錠 + デザレックス 5 mg _____錠 内服

☆ 30分後より

② 生食 500 mLにて血管確保・ 維持(20 mL/時間)

③ リツキシマブBS + 生食 適量(10倍希釈)

◎ 輸液ポンプにて 100 mL/時間 で点滴静注

* 注:総量 600 mLを超える時はテルモ生食 1Lを使用

④ 100 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 200 mL/時間 で点滴静注

⑤ 200 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 300 mL/時間 で点滴静注

⑥ 300 mL/時間で 30分点滴静注した後、患者の状態に変化がなければ

◎ 輸液ポンプにて 400 mL/時間 で点滴静注

day 2

① グラニセトロンゼリー 2 mg 内服

福岡大学化学療法プロトコル審査委員会承認 (2009年3月27日) B0244

2025年1月17日改訂

COP[day2]+【BS】Rituximab療法

② ソリタT3 200 mL にて血管確保

③ プレドニン + 生食 50 mL 点滴静注 5分(600 mL/時間) もしくは 内服

④ オンコビン + 生食 50 mL 点滴静注 5分(600 mL/時間)

⑤ エンドキサン + 生食 100 mL 点滴静注 60分

◎ ・血管確保していたソリタT3をエンドキサンと同時滴下90分で点滴静注

day 3- 6 プレドニゾロン錠 ・ 内服

	コース		コース		コース	
	day1	day2	day1	day2	day1	day2
月日	/	/	/	/	/	/
リツキシマブBS 開始時刻	↓		↓		↓	
プレドニン 開始時刻		↓		↓		↓
オンコビン 開始時刻		↓		↓		↓
エンドキサン 開始時刻		↓		↓		↓
確認						

	コース	
	day1	day2
月日	/	/
リツキシマブBS 開始時刻	↓	
プレドニン 開始時刻		↓
オンコビン 開始時刻		↓
エンドキサン 開始時刻		↓
確認		